

中学校「書くこと」における 教科横断的な思考力の育成

— 1年生から2年生にかけての授業実践を通して—

鈴木 佑亮 (ベネッセ教育総合研究所)

小野塚 若菜 (ベネッセ教育総合研究所)

藤井 泉浩 (明星中学校・高等学校)

背景

- ・生徒Aの中1時の参照データが別人（生徒F）のものだったことが、提出後に発覚。

訂正内容

- ・発表要旨うち生徒Aに関する考察部分→**取り下げ**。
※正しい考察は本日の発表にて。
- ・分析対象「生徒5名（生徒A～E）」→「生徒**6**名（生徒A～**F**）」
※Fを分析対象に追加

1. 研究の背景

新学習指導要領における言語能力

言語能力は、全ての教科等における学習の基盤となる資質・能力である。このため、第1章総則の第3の1(2)において、「言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて、生徒の言語活動を充実すること。」とされているとおり、言語能力の育成に向けて、国語科が中心的な役割を担いながら、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図ることが重要である。

(出典：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編 P135)

新学習指導要領の現状

- ・ 言語活動例が各教科内で示されているに留まり、**教科横断的な視点での指導目標や、内容の設定に関する整理は十分とは言えない。**

1. 研究の背景

中学校言語能力Can-do statementsの開発

- ・小野塚・泰山（2021）は中学校言語能力Can-do statements（以下、Cds）を開発。
- ・Cdsとは、言語能力のうち特に「思考力・判断力・表現力等」（以下、思考力）に着目し、**教科横断的な思考力の指導目標を整理**したもの。
- ・探求の過程が「**課題設定**」「**情報収集**」「**整理・分析**」「**まとめ・表現**」の4段階に分けられている。
- ・各教科がバラバラに捉えていた言語能力（思考力・判断力・表現力の側面）を教科横断的な能力として捉え直すために役立てることができる。

著者らがこれまで行ってきた実践研究

- ・**Cdsの能力記述文を、思考力育成の目標としてとらえた**うえで、それを起点とした中学校国語科「書くこと」の授業を2年間継続的に実践。
- ・授業を受けた生徒の意識変容を観察し、授業設計の妥当性を都度検討。（藤井・小野塚・鈴木（2021）、鈴木・小野塚・藤井（2022））

2. 研究の目的

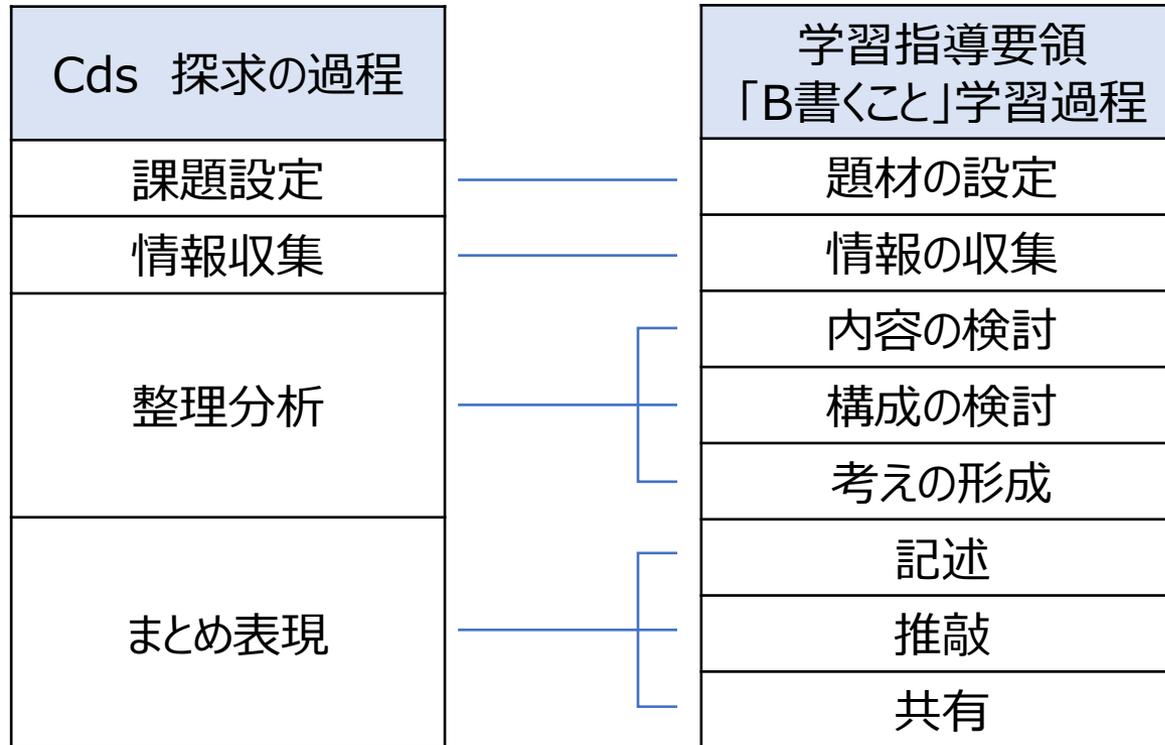
- ・ 中1から中2にかけて、生徒の作文や振り返りにどのような変容が見られたかを分析することで、本実践が教科横断的な思考力の目標の達成にどのように貢献したかを考察する。

3. 本実践の概要

3-1. 中学校言語能力Can-do statements (Cds)

※Cdsの詳細は別紙2 参照

Cdsと国語科「書くこと」の対応関係



- 「書くこと」はCdsとの対応関係が比較的わかりやすいため、Cdsの実践の場として適切と考えた。

3. 本実践の概要

3-2. 3年間の各学年の目標

学年	目標
中1	与えられた課題について、与えられた資料に示された客観的な根拠を示しながら、自分の意見をわかりやすく述べる。
中2	自ら設定した課題について、情報を収集したり、整理・分析したりしながら、自分の意見をわかりやすく述べる。
中3	自ら設定した課題について、収集した情報を吟味したうえで整理・分析し、構成や展開を工夫しながら自分の意見を述べる。

▼設定する際に心がけたこと

- ・中2以降は「課題設定」や「情報収集」の思考をはたらかせること。
- ・学年が上がるにつれて難易度が向上すること。

3. 本実践の概要

3-3. 中1から中2にかけて行った単元の概要

※単元の詳細は別紙1 参照

中1の単元について

▼指導のポイント

- ・自分の意見を見出せるようになること以上に、相手に伝わりやすい文章を書けるようになることを重視。
- ・課題→主張→根拠→まとめという作文の型に沿って指導を展開。
- ・根拠を示す際には「意味づけ」を行うように指導。

▼テーマ1（以下、T1と表記する）

- ・実際に意見文を読むことを通して、型を理解。
- ・生徒自身も型に沿って作文を書く活動。

▼T2以降

- ・与えられた資料に基づいて作文を書く活動。
- ・課題と主張をあらかじめ授業者が提示し、生徒が以下に注力できるように工夫。
 - ・資料から根拠にふさわしい情報を探し出すこと
 - ・課題→主張→根拠→まとめという型に沿って作文を書くこと
- ・作文を書き始める前には、必ず型に沿った構想メモを作成するように指導。

3. 本実践の概要

3-3. 中1から中2にかけて行った単元の概要

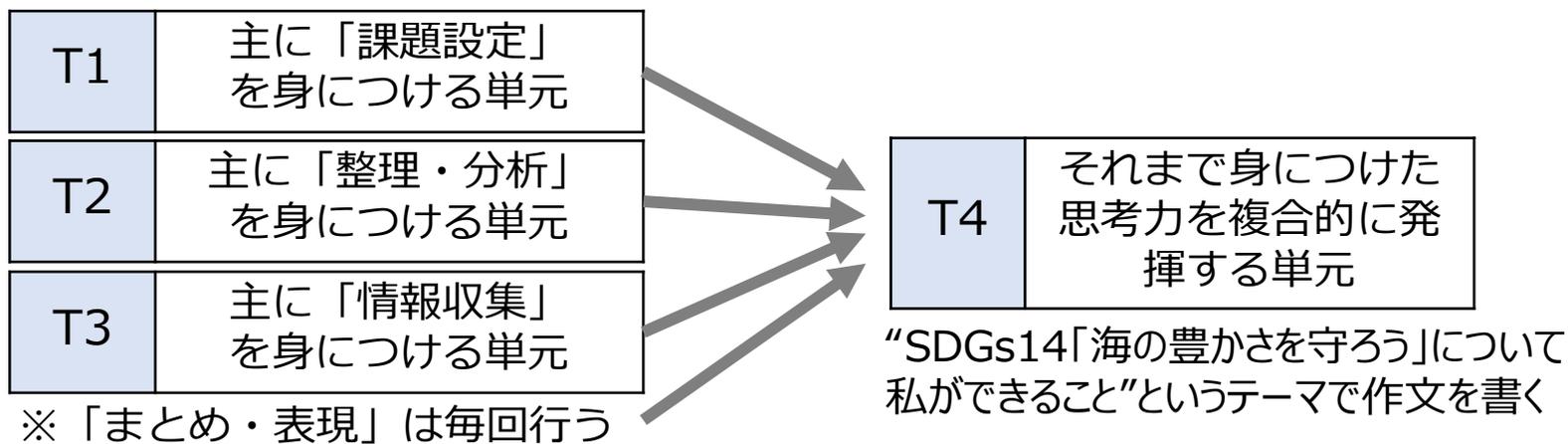
※単元の詳細は別紙1 参照

中2の単元について

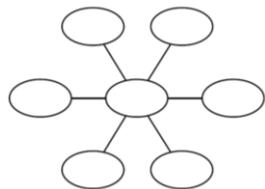
▼指導のポイント

- ・中1の指導に加え、「課題設定」「情報収集」を生徒自らが行えるようになることや、自分なりの意見を見出せるようになることを重視。

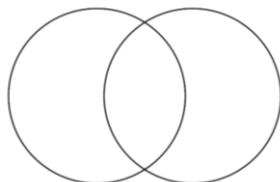
▼年間の単元設計



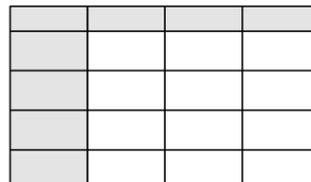
▼中2から導入した思考ツール



マッピング



ベン図



マトリックス（観点表）

4. 分析の方法

▼分析対象の生徒

- ・生徒6名（生徒A,B,C,D,E,F）

▼分析対象の単元

- ・中1のT2,T4,T5 中2のT1,T2,T4

▼分析対象物

- ・上記単元で生徒が書いた作文、振り返りシートの記述

▼振り返りの分析

- ・振り返りシートに書かれた記述に対応するCdsナンバーとの照合。
⇒思考力の目標のうち、どの意識が高まっているのかを考察

▼作文の分析

- ・作文の評価としては、以下のa~fの観点をもってしたが、本発表はCdsとの対応が明確なb.~d.の分析を示す。
⇒振り返りで見られた意識のうち、#9,#11,#15が作文へ反映しているかどうかを考察

＜作文の評価観点＞

- a.型を意識した構成になっているか
- b.根拠と自分の考えの書き分け（#11と対応）
- c.根拠として適切な情報の提示（#9,#15と対応）
- d.意味づけの提示（#15と対応）
- e.適切な係り受けができてくるか
- f.（a.~e.をふまえて）論理的で説得力のある文章になっているか

4. 分析の方法

振り返りシートでの質問内容について補足

▼中2T4以外の振り返りシート

- ①「めあてに対してこのテーマの学習をふり返ってみて何がわかりましたか。」
- ②「このテーマの学習を通してあなたの何がどのように変わりましたか。そのことについてあなたはどう思いますか。」

▼中2T4

- ①めあてとしたCdsごとに、それをどのように発揮できたかを質問。
 - ②「1年間の授業を通して、力が伸びたと感じることを書いてください。」
- ※生徒Fについては、①について「できた」「まあできた」しか記述しなかったため、適切な分析ができていない。②のみ分析。

4. 分析の方法

振り返りの記述とCdsとの照合例

▼生徒F・中1T4の例

【めあてに対してこのテーマの学習を振り返ってみて何がわかりましたか】

- ・ 自分が書いてきた文を見直すと (#19) , 意味づけの部分がかけていなかった (#15) り段落をあけていないことが多かったので、基本の所もていねいにやっていきたい
- ・ わかりやすくするためには (#18) 具体的な数値を調べて書く (#9) とわかりやすいことがわかった
- ・ アドバイスは大切！ (#21)

【このテーマの学習を通してあなたの何ごどのように変わりましたか。そのことについてあなたはどう思いますか】

200文字以上の長い文を書くときは、すぐに書き出さず組み立てをすることがすごく大事だった (#9,#15)

相手に読みやすく工夫することも意識してかいていきたい (#18)

意見文を書く練習をもっとしてなれるといいと思った。

▼左記振り返りで意識向上が見られるCds

#9：情報を整理し、焦点化する内容を特定することができる

#15：情報や事象を比較したり、関係づけたりすることができる

#18：相手や目的、状況に合った方法で表現・説明することができる

#19：問題解決の結果やそのプロセスを客観的にとらえ、良い点や改善点を見いだすことができる

#21：考えや結論に対して他者の考えを踏まえながら再検討することができる

#22：学習した内容に基づいて、知識や考えを広げたり深めたりすることができる

4. 分析の方法

作文の分析例

▼生徒C・中1T4の例

青空市立図書館の利用数を月に1回でも増やす有効な方法は何かという課題意識について（課題）私は、開館時間を延長するべきだと考える（主張）。

なぜなら、資料1から41～61歳以上の人が多く月に1回未満しか利用しないことがわかる（根拠）。そのため、41歳以上の人への対策が有効である（意味づけ）。

そして、資料2から月に1回未満しか利用しない41歳以上の人の意見には、利用したい時間にかけていないというものが多い（根拠）。そのため、開いている時間を長くすることで、年配の方も利用しやすくなるのである（意味づけ）。

従って私は、開館時間を延長するべきだと考える（まとめ）。

b.根拠と自分の考えの書き分け （#11と対応）	c.根拠として適切な情報の提示 （#9,#15と対応）	d.意味づけの提示 （#15と対応）
◎	◎	◎

5. 分析結果と生徒の変容

以降の発表について補足

- ・ 生徒A～Fの分析結果一覧は別紙2に示した。
（※この後は別紙2を適宜参照しながらお聞きください。）
- ・ 中2T1は難易度が高かった。それまでできていたことが、中2T1ではできなくなっている生徒も。
⇒授業設計自体に問題があったと考えられるが、その要因については本発表の趣旨と外れるため割愛。

5. 分析結果と生徒の変容

5-1. 生徒Aの変容について

※詳細は別紙2 参照

生徒Aの変容について考察

【#15と#18の関係について】

▼中1 T2

- ・ [振り返り]他者へわかりやすく伝えること (#18) についての意識が高まっているが、そのためどうすればいいかはこの時点では明確には言語化できていない状況。
※「説明文を読むときに事実, 根拠, 意見を読み取れるようになった」という記述があり#15の意識が見られたため表には◎印をつけたが、ここでは読む側の観点としてしか獲得しておらず、書く側に回った時はまだ意識できていない。
- ・ [作文]上記の意識が獲得できていない状況が作文にも反映されている。

▼中1 T4以降

- ・ [振り返り]意味づけ (#15) によって他者へわかりやすく伝えることができる (#18) と気づく。それ以降も中2 T1を除いて#15と#18はほぼセットで出現。
- ・ [作文]b.~d.をすべて満たした書き方ができるようになり、それ以降も中2 T1を除いて同様によく書けている。※振り返りで書かれていなかった単元も、作文では発揮が認められた。

【生徒Aの変容まとめ】

- ・ #15によって#18が達成できるという意識があると、作文もよく書けている。
- ・ 中1T2や中2T1では逆に#15と#18が発揮されなかったことが作文に反映されている。

5. 分析結果と生徒の変容

5-2. 生徒Bの変容について

※詳細は別紙2 参照

生徒Bの変容について考察

【#6,#9,#11,#15と#18の関係について】

[振り返り]

- ・中1T2「たくさんの根拠がある中で文を書くうえで適切な根拠はどれかを整理（#6,#9）」
「重要な部分をしぼりだして（#9），人に伝わりやすい文章を書く（#18）」
- ・中1T4「主張とデータの意味づけを行う（#15）ことで，自分が何を言いたいのかが相手に伝わりやすくなる（#18）。」

⇒複数の情報を整理（#6）→根拠となる情報を焦点化（#9）+意味づけ（#15）→相手に伝わる文章（#18） という意識。

[作文]

- ・b.根拠と考えの書き分け（#11）は、中1T4以降できている。
- ・c.根拠として適切な情報の提示（#9,#15）は、中2T1を除いて常にできている。

⇒振り返りで見られた#9,#11,#15の意識の高まりが作文にも反映。

- ・d.意味づけ（#15）の提示は全体的に苦手気味。中2T2とT4で克服したか。

⇒#15は高まっていますが、意味づけは難易度が高いか。

⇒中2T4では振り返りにも「意味づけをしっかりと考えて書けるようになった」という記述があり、意識が向いている。

5. 分析結果と生徒の変容

5-2. 生徒Bの変容について

※詳細は別紙2 参照

生徒Bの変容について考察

【#20および学習内容を教科横断的にとらえようとする意識の向上】

[振り返り]

・中2 T2 「最初に根拠に書くことを明確にしておいたほうが自分の意見を文章にまとめやすくなる（中略）**これを使って今ほしいものを父にプレゼンしようと思いました。」**

⇒学習した内容を、国語以外の場面で使おうを展開している（#20および**教科横断的な意識**）。
誰かを説得する際には、型に沿って自分の考えをまとめることが有用という認識になっていることが示唆。

【生徒Bの変容まとめ】

- ・複数の情報を整理（#6）→根拠となる情報を焦点化（#9）+意味づけ（#15）→相手に伝わる文章（#18）という意識を、中1のT2,T4時点で獲得。作文にも反映されている。
- ・中2 T2では学習内容を教科横断的にとらえようとする意識の向上もみられた。

5. 分析結果と生徒の変容

5-3. 生徒Cの変容について

※詳細は別紙2 参照

【#9,#11,#15と#18の関係について】

[振り返り]

- ・中1 T2「要約を丁寧いに確実に行うことにより (#9) , 主張や根拠がぬけず (#11) , 相手にも伝わりやすくなる (#18) 」
「『従って』『なぜなら』などの接続語がわかりやすくなる (#15,#18) 」
- ・中1 T4「どこを主張にし, どこを根拠にするのか (#9,#11) ということのを先に考え, 資料を整理してからまとめることでの確に主張などが伝わる (#18) 」

⇒根拠となる情報を関係づけながら端的にまとめる (#9,#11,#15) ことが、相手に伝わる文章 (#18) につながるという意識。特に#9を重視して作文を書いている。

[作文]

- ・b.根拠と考えの書き分け (#11) は、中1 T4以降、中2 T1を除いてできている。
 - ・c.根拠として適切な情報の提示 (#9,#15) は、中2 T1を除いて常にできている。
- ⇒振り返りで見られた#9,#11,#15の意識の高まりが作文にも反映。
- ・d.意味づけ (#15) の提示は全体的に苦手気味。中2 T2とT4で克服したか。
- ⇒#15は高まっても、意味づけは難易度が高いか。

5. 分析結果と生徒の変容

5-3. 生徒Cの変容について

※詳細は別紙2参照

【論理展開を先に示すという工夫】

▼中2 T4の作文の一部

(前略) このような課題意識について私たちは、ポイ捨て・分別・プラスチックという3つの対策を原因によって使い分けるべきと考える。この3つについて根拠を説明する。まず、「ポイ捨てをしない」という点は、ぽいすてをしまうと、どこに捨てたとしてもいつかは海へたどり着いてしまうからである。そのため、ポイ捨て自体をしないことで、ゴミの削減ができるのである。次に、「処分方法や分別に気をつける」という点は、(後略)

⇒この後の論理展開を先に示す工夫が自主的に行われている。相手が読みやすい文章を書こうという意識(#18)によるものか。

【生徒Cの変容まとめ】

- ・根拠となる情報を関係づけながら端的にまとめる(#9,#11,#15)ことが、相手に伝わる文章(#18)につながるという意識を、中1のT2,T4時点で獲得。これが作文にも反映されている。ただし、#15は高まっても、意味づけは難易度が高い。
- ・#18の意識からか、この後の論理展開を先に示す工夫を自主的に行っている。

5. 分析結果と生徒の変容

5-4. 生徒Dの変容について

※詳細は別紙2参照

【読むときの意識から書くときの意識への転換】

[振り返り]

- ・中1 T2「課題・主張・根拠の要素をまとめる（#9）と要約ができる（#9,#15）」
= 他者の文章を読んで要約するときの意識として#9,#15。
- ・中1 T4「データと主張のつながり（#15）」によって「相手に伝わりやすくなる（#18）」
= 自分の考えを表現するときの意識として#15,#18。
- ・中2 T1「情報を整理する際に、（最終的に作文として書くという）見通しを持って行うことが大事。（#6,#8,#9）」

[作文]

- ・中1 T2…課題と主張と根拠のそれぞれの要素をある程度焦点化できているものの、関係づけができていない。そのため、文章全体がややわかりにくい。
 - ・中1 T4…b.~d.をすべて満たせている。特に、意味づけがよくできていることで、説得力のある文章になっている。これ以降も同様によく書けている。
- ⇒中1T2時点で獲得できていなかった、自分の考えを表現するときの意識が向上したことが作文にも反映。

5. 分析結果と生徒の変容

5-4. 生徒Dの変容について

※詳細は別紙2参照

【反駁の要素】

▼中2 T4の作文の一部

SNS上に拡散させることでポスターを見た人が情報を確かめるようになり、工場
の情報が拡散されて工場がそのことの重大さに気づくとう言うことです。（中
略）この方法なら有害物質の放出を防げるのではないかと思いましたが、**もちろ
んこの方法はSNSを使っているので確実なものではありません（※反駁）**。です
が、ネット上での活動であれば色々な人が参加しやすくなります。そしてこの
方法であればSNSを利用する若い年齢層に現状を強く認知させることができます。
（後略）

⇒反駁の要素は特に指導していないが、自主的に工夫している。
相手に考えを伝えようという意識（#18）によるものか？

【生徒Dの変容まとめ】

- ・中1 T2では他者の文章を読んで要約するときの意識しかなかったが、中1 T4で自分の考えを表現するための意識として#15,#18が向上し、作文が格段にわかりやすい文章になっている。
- ・中2 T1では#6,#8,#9の意識も向上。
- ・中2 T4では反駁の要素が見られた。#18の向上によるものか？

5. 分析結果と生徒の変容

5-5. 生徒Eの変容について

※詳細は別紙2参照

【#6と、#9,#11,#15の意識の高まりについて】

[振り返り]

- ・中1 T2で#9、中1 T4で#15、中1 T5で#6,#11の意識の高まりが見られた。
- ⇒情報を比較して整理・分析することで（#6）、どの情報を根拠として選定するか（#9）や、その情報を主張とどのように関係づけて書くか（#11,#15）といったことができるようになるという意識が見られる。

[作文]

- ・ b.根拠と考えの書き分け（#11）は、中2 T1を除いて常にできている。
 - ・ c.根拠として適切な情報の提示（#9,#15）は、中1のテーマが進むごとにできるようになり、中2では常にできている。
 - ・ d.意味づけの提示（#15）は、中1 T2と中2 T2を除いて常にできている。
- ⇒振り返りで見られた#9,#11,#15の意識の高まりが作文にも反映。
他の生徒に比べ、意味づけもできている方。

5. 分析結果と生徒の変容

5-5. 生徒Eの変容について

※詳細は別紙2 参照

【#18の意識の希薄さについて】

- ・中1 T2「資料から分かることを整理しながら相手が分かりやすいように文を要約することができた。」
⇒情報を整理して焦点化する（#9）ことで相手がわかりやすい文になる（#18）という意識
- ・しかし、これ以降は#18の意識がかなり薄く、#6,#11,#15などの意識はあるが、それが#18につながるという意識が見られない状態が中2 T2まで続いた。
- ・中2 T4で「他の生徒が読んでもわかるように作文を書いた」という記述はあったが、その他者にとってのわかりやすさの要因が何かについては言及なし。

【生徒Eの変容まとめ】

- ・中1の1年間で、情報を比較して整理・分析することで（#6）、どの情報を根拠として選定するか（#9）や、その情報を主張とどのように関係づけて書くか（#11,#15）といったことができるようになるという意識を獲得。それが作文にも反映されている。
- ・しかし、それによって相手にわかりやすい文章になる（#18）という意識は希薄

5. 分析結果と生徒の変容

5-6. 生徒Fの変容について

※詳細は別紙2参照

学年	テーマ連番	変容
中1	T2	<ul style="list-style-type: none"> ・[振り返り]相手意識 (#18) はあるが、そのためにどういう書き方をすればいいのかまではわかっていない。 ・[作文]読みにくい文章。
	T4	<ul style="list-style-type: none"> ・[振り返り]書き終えた後のペア交流を通じて、自分の書き方の良い点や改善点を見出した。 (#19,#21) ・[振り返り]良い点 = 具体的な数値を書くとうわかりやすくなる (#9,#18) ・[振り返り]改善点 = 意味づけがかけなかった (#15)
	T5	<ul style="list-style-type: none"> ・[作文]T4での意識の高まりが影響してか、作文はb.根拠と自分の考えの書き分け (#11) とc.根拠として適切な情報の提示 (#9,15) ができている。
中2	T1	<ul style="list-style-type: none"> ・[振り返り]最終的に作文に直すことを見越して情報を整理し、根拠を焦点化する意識 (#6,#8,#9) 。
	T2	<ul style="list-style-type: none"> ・[振り返り]思考ツール有用性に気づく (#10) ・[作文]d.意味づけ (#15) ができるようになる。
	T4	<ul style="list-style-type: none"> ・[作文]これまでの学習の成果によって、わかりやすく説得力のある文章が書けている。 ・[振り返り]「資料の読み取り方は一番伸びたと思う。視点を変えてみると色々な意見が浮かんでくるようになった。」 <p>=「情報収集」と「整理・分析」の意識から「自分の考えの形成」の意識につながっている</p> <p>※振り返りは、項目ごとに「できた」「まあできた」しか記述しておらず、発揮の判断が不可。「1年間の授業を通して、力が伸びたと感じることを書いてください」という質問では詳しい記述があったため、その部分のみで考察。</p>

⇒ペア交流や振り返りにおけるメタ認知の充実が効果的に働き、Cdsの意識をまんべんなく獲得。それが作文に反映され、作文力が大きく伸びている。

#18の獲得→そのための方略として#9,#15の獲得→#6,#8,#9の獲得→#10の獲得

5. 分析結果と生徒の変容

5-6. 生徒Fの変容について

※詳細は別紙2参照

【学習内容を教科横断的にとらえようとする意識の向上】

・中2 T2振り返り

「どんなことに対してでも図はすごく助けてくれることを改めて感じた（数学なども）」

⇒図（思考ツール？）の汎用性についての気づき。（教科横断的な意識）

【生徒Fの変容まとめ】

- ・ペア交流や振り返りにおけるメタ認知の充実が効果的に働き、Cdsの意識をまんべんなく獲得。それが作文に反映され、作文力が大きく伸びた。
- ・#18の獲得→そのための方略として#9,#15の獲得→#6,#8,#9の獲得→#10の獲得
- ・中2 T2では思考ツールの汎用性への気づきから、学習内容を教科横断的にとらえようとする意識の向上が見られた。

5. 分析結果と生徒の変容

5-7. 総合考察

本実践が教科横断的な思考力の目標の達成にどのように貢献したかの考察

▼ #18の意識向上と#6,#9,#11,#15等の意識向上の関係性

- ・生徒E以外…中1の初期段階で#18の意識が向上。その後あるいは同時に、#18を達成するための方略として#6,#9,#11,#15等へも意識が向けられていった。これが作文にも反映。
- ・生徒E…#18の意識が希薄だが、#6,#9,#11,#15はすべて意識が向上。これが作文にも反映。

▼ #6の意識向上

- ・#6は、多くの生徒で中1よりも中2の方が意識の向上が見られた。（生徒E以外）
⇒中1では与えられた情報を整理する活動だったが、中2では自ら情報収集しながら整理するという活動だったため、中2でより意識が向けられたと考えられる。

▼ 学習内容を教科横断的にとらえようとする意識の向上

- ・生徒Bの中2T2「お父さんにプレゼンしようと思う」や、生徒Fの中2T2での思考ツールの汎用性への気づきからは、学習内容を教科横断的にとらえようとする意識の向上が見られる。

5. 分析結果と生徒の変容

5-7. 総合考察

副次的な考察

▼意味づけの難しさについて

・ #15の意識が向上しても、適切に意味づけをするのは難易度が高く、十分にできるようになるまで年月がかかった生徒や、一度できるようになっても題材等の書きにくさによってはできなくなる生徒がいた。

▼自主的な文章の工夫について

・ 中2 T4では、生徒Cが先に論理展開を示す工夫、生徒Dが反駁の工夫を自主的に行っている。いずれも#18の意識によるものか。

⇒#18の意識の発達が自主的な文章の工夫を促す可能性があるか。

6. 研究の成果と今後の計画

研究の成果

- ・中1から中2にかけて、生徒の作文や振り返りにどのような変容が見られたかを分析。これにより、本実践が教科横断的な思考力の目標の達成にどのように貢献してきたかを明らかにした。
 - ⇒ ・ #18の意識向上と#6,#9,#11,#15等の意識向上の関係性
 - ・ #6の意識向上
 - ・ 学習内容を教科横断的にとらえようとする意識の向上
- ・ 副次的な考察として、意味づけの難しさや、#18由来と思わしき自主的な文章の工夫も発見できた。

今後の計画

- ・ 今回得られた知見を活かしながら、現在中3になった生徒たちへの授業実践を継続。生徒のさらなる変容を観察し、考察の深化を目指す。
- ・ 他教科でもCdsを目標とした授業実践が行われている。それらの実践内容や分析結果とも比較し、教科横断的な視点での考察を試みる。

参考文献

- ・小野塚若菜・泰山裕（2021）「中学校学習指導要領に基づく言語能力Can-do statementsの開発」日本教育工学会第39回講演論文集
- ・黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕（2012）「シンキングツール～考えることを教えたい～（短縮版）」NPO法人学習創造フォーラム
http://ks-lab.net/haruo/thinking_tool/short.pdf
- ・鈴木佑亮・小野塚若菜・藤井泉浩（2022）「教科横断的な思考力の育成を目指す中学校『書くこと』の授業設計と実践—中学2年生の実践から見えてきたこと—」, 『全国大学国語教育学会第143回千葉大会（対面開催）研究発表要旨集』
- ・泰山裕（2014）「思考力育成を目指した授業設計のための思考スキルの体系化と評価」 関西大学審査学位論文
- ・藤井泉浩・小野塚若菜・鈴木佑亮（2021）「教科横断的な目標としての思考力の育成を目指した中学校『書くこと』の実践」全国大学国語教育学会第141回世田谷大会（オンライン）研究発表要旨集
- ・文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』

鈴木・小野塚・藤井 発表資料 別紙1 中1から中2にかけて行った単元の一覧

学年	テーマ 連番	単元名	概要	単元のねらいとしたCds				授業数
				課題 設定	情報 収集	整理・ 分析	まとめ・ 表現	
中1	T1	・標識語の使い方と機能を理解し、筆者の主張を読み取る ・お気に入りの一品を紹介する	標識語（接続詞や文末表現など読み取りのキーワードになる言葉）に注目しながら意見文を読み、課題意識・主張・根拠・まとめにあたる要素を理解する。 課題意識・主張・根拠・まとめを意識しながら、自分のお気に入りの一品を紹介する文章を書く。	-	-	#15	-	5回
	T2	コンビニエンスストアの立地	文章とグラフから、コンビニエンスストアが売り上げを良くするために必要な立地の条件を読み取り、200字程度で説明する。	-	#6	#15	#18	3～4回
	T3	流れ星イベントの課題	2つのグラフから、「市民の『流れ星イベント』への認知度を高めるにはSNSによる告知を強化すべきだ」と主張するための根拠を読み取り、200字程度で説明する。	-	#6	#15	#18	5回
	T4	青空市の図書館	2つのグラフから、「図書館の利用者を増やすには開館時間を延長すべきだ」と主張するための根拠を読み取り、200字程度で説明する。	-	#6	#15	#18	5～6回
	T5	Eメールと「僕」の課題 ※「国語A」での「少年の日の思い出」を読む授業と連携	「少年の日の思い出」の「僕」と「Eメール」が関係を修復するためには、誰が、どのような行動をとるべきかという問いについて、(1)「僕」が素直に「Eメール」に自分の気持ちを伝えるべきだ、(2)「Eメール」が「僕」と対話すべきだ、という2つの主張のいずれかを選び、本文の記述を根拠としながら400字程度で説明する。	-	#6	#15	#18	6回
中2	T1	私の好きなものの共通点	課題設定を重視した単元。マッピングを用いて自分の好きなものを書き出した後、ベン図を用いてそれらの共通点を探り、200字程度で説明する。	#1	#6	#15	#18	4～5回
	T2	合唱コンクールで歌いたい曲	整理・分析を重視した単元。マトリックスを用いて合唱コンクールの候補曲を分析したうえで、自分の歌いたい曲についての意見を200字程度で述べる。	-	#6	#10	#18	4～5回
	T3	メディアの特徴を活かして情報収集できるよ うになろう	情報収集を重視した単元。メディアごとの特徴をまとめたうえで、状況や目的ごとにどのメディアを選択すべきか自分の考えをまとめる。	-	#6 #8	#15	-	2回
	T4	SDGs14「海の豊かさを守ろう」について、 私ができること	テーマ1～3で身につけたCdsを複合的に発揮する単元。自ら課題を設定したうえで、それについての情報収集、整理・分析を行い、自分の意見を800字程度で述べる。	#1	#6	#10 #11 #13 #15	#18 #19 #21	13～15回

▼単元のねらいとしたCdsの能力記述文

#1：日常生活や社会事象から課題を見つけることができる
 #6：複数の情報を目的に沿って整理することができる
 #8：合理的・効率的な情報収集の方法を選択することができる
 #10：図表やモデルを用いて整理・分析し、対象をとらえることができる
 #11：根拠を明確にして考えをまとめることができる
 #13：対象や事象を、日常生活や社会事象と結び付けて考えることができる

#15：情報や事象を比較したり、関係づけたりすることができる
 #18：相手や目的、状況に合った方法で表現・説明することができる
 #19：問題解決の結果やそのプロセスを客観的にとらえ、良い点や改善点を見いだすことができる
 #21：考えや結論に対して他者の考えを踏まえながら再検討することができる

Cds能力記述文一覧 ※以下の表に出現しているものには★を付した**【課題設定】**

- ★#1：日常生活や社会事象から課題を見つけることができる
- #2：設定した課題に対し，調べる方法や進め方を考えることができる
- #3：情報を多面的にみながら考察し，仮説を立てることができる
- #4：事象や情報の関係をとらえ，傾向を見いだすことができる
- #5：設定した課題から着目すべき点をとらえることができる

【情報収集】

- ★#6：複数の情報を目的に沿って整理することができる
- #7：収集した情報の信頼性を確かめることができる
- ★#8：合理的・効率的な情報収集の方法を選択することができる

【整理・分析】

- ★#9：情報を整理し，焦点化する内容を特定することができる
- ★#10：図表やモデルを用いて整理・分析し，対象をとらえることができる
- ★#11：根拠を明確にして考えをまとめることができる
- #12：対象や事象に対してさまざまな視点からとらえることができる
- ★#13：対象や事象を，日常生活や社会事象と結び付けて考えることができる
- #14：対象の適切さを確かめることができる
- ★#15：情報や事象を比較したり，関係づけたりすることができる
- #16：対象の意味や価値をとらえ，そこから自分の考えを持つことができる
- #17：得られた情報や経験等を関係づけて考察した結果に基づいて，推論したり解決策を見いだしたりすることができる

【まとめ・表現】

- ★#18：相手や目的，状況に合った方法で表現・説明することができる
- ★#19：問題解決の結果やそのプロセスを客観的にとらえ，良い点や改善点を見いだすことができる
- ★#20：学習内容や振り返りに基づいて，新たな課題を見いだすことができる
- ★#21：考えや結論に対して他者の考えを踏まえながら再検討することができる
- #22：学習した内容に基づいて，知識や考えを広げたり深めたりすることができる

5-1. 生徒Aの変容について

生徒Aの振り返りの分析

※◎ = ねらいとしており、発揮されたもの / ● = ねらいとしていなかったが、発揮されたもの / × = ねらいとしていたが発揮されなかったもの

学年	テーマ連番	単元名	生徒Aの振り返りの中で発揮が見られたCds												
			課題設定	情報収集		整理・分析					まとめ・表現				
			#1	#6	#8	#9	#10	#11	#13	#15	#18	#19	#20	#21	
中1	T2	コンビニエンスストアの立地		×		●					◎	◎	●		
	T4	青空市の図書館		×				●			◎	◎			
	T5	エーメールと「僕」の課題		×		●					×	◎			
中2	T1	私の好きなものの共通点	◎	◎							×	×			
	T2	合唱コンクールで歌いたい曲		×				×			●	◎			
	T4	SDGs14「海の豊かさを守ろう」について、私ができること	◎	◎				×	◎	×	◎	◎	◎		◎

生徒Aの作文の分析

※◎ = できている / △ = 一部できている / × = できていない

学年	テーマ連番	単元名	生徒Aの作文の分析			
			b.根拠と自分の考えの書き分け	c.根拠として適切な情報の提示	d.意味づけの提示	備考
中1	T2	コンビニエンスストアの立地	× 混同している	△ 要素はあるが、示し方がわかりにくい	△ 要素はあるが、示し方がわかりにくい	振り返りで型の重要さに気づいた記述あり
	T4	青空市の図書館	◎	◎	◎	
	T5	エーメールと「僕」の課題	◎	◎	◎	
中2	T1	私の好きなものの共通点	◎	△ 要素はあるが、説明がやや不十分	× 要素なし	
	T2	合唱コンクールで歌いたい曲	◎	◎	◎	
	T4	SDGs14「海の豊かさを守ろう」について、私ができること	◎	◎	◎	

5-2. 生徒Bの変容について

生徒Bの振り返りの分析

※◎ = ねらいとしており、発揮されたもの / ● = ねらいとしていなかったが、発揮されたもの / × = ねらいとしていたが発揮されなかったもの

学年	テーマ 連番	単元名	生徒Bの振り返りの中で発揮が見られたCds												
			課題設定	情報収集		整理・分析					まとめ・表現				
			#1	#6	#8	#9	#10	#11	#13	#15	#18	#19	#20	#21	
中1	T2	コンビニエンスストアの立地		◎		●					×	◎			
	T4	青空市の図書館		×							◎	◎			
	T5	エーメールと「僕」の課題		×							×	◎			
中2	T1	私の好きなものの共通点	×	◎							×	◎			
	T2	合唱コンクールで歌いたい曲		×				◎	●			×		●	
	T4	SDGs14「海の豊かさを守ろう」について、私ができること	◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎

生徒Bの作文の分析

※◎ = できている / △ = 一部できている / × = できていない

学年	テーマ 連番	単元名	生徒Bの作文の分析			
			b. 根拠と自分の考えの書き分け (#11と対応)	c. 根拠として適切な情報の提示 (#9, #15と対応)	d. 意味づけの提示 (#15と対応)	備考
中1	T2	コンビニエンスストアの立地	△ 自分がアンケートをとったかのような表現	◎	◎	
	T4	青空市の図書館	◎	◎	△ 根拠の解釈を示しているが、主張との結びつきが不十分	
	T5	エーメールと「僕」の課題	◎	◎	△ 中1T4と同	
中2	T1	私の好きなものの共通点	◎	×	× 主張を支えるものになっていない	× 要素なし 書きかけのまま提出
	T2	合唱コンクールで歌いたい曲	◎	◎	◎	
	T4	SDGs14「海の豊かさを守ろう」について、私ができること	◎	◎	◎	

5-3. 生徒Cの変容について

生徒Cの振り返りの分析

※◎ = ねらいとしており、発揮されたもの / ● = ねらいとしていなかったが、発揮されたもの / × = ねらいとしていたが発揮されなかったもの

学年	テーマ連番	単元名	生徒Cの振り返りの中で発揮が見られたCds											
			課題設定	情報収集		整理・分析					まとめ・表現			
			#1	#6	#8	#9	#10	#11	#13	#15	#18	#19	#20	#21
中1	T2	コンビニエンスストアの立地		×		●		●		◎	◎			
	T4	青空市の図書館		×		●		●		×	◎			
	T5	エーメールと「僕」の課題		×		●		●		×	×			
中2	T1	私の好きなものの共通点	×	◎		●	●			×	×			
	T2	合唱コンクールで歌いたい曲		×			◎			●	×			
	T4	SDGs14「海の豊かさを守ろう」について、私ができること	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎

生徒Cの作文の分析

※◎ = できている / △ = 一部できている / × = できていない

学年	テーマ連番	単元名	生徒Cの作文の分析			
			b. 根拠と自分の考えの書き分け (#11と対応)	c. 根拠として適切な情報の提示 (#9, #15と対応)	d. 意味づけの提示 (#15と対応)	備考
中1	T2	コンビニエンスストアの立地	× 根拠も自分の考えのよ うに記述	◎	△ 要素はあるが説明が不 十分	
	T4	青空市の図書館	◎	◎	◎	
	T5	エーメールと「僕」の課題	◎	◎	△ 中1T2と同	
中2	T1	私の好きなものの共通点	× 書き分けられていない	× 主張を支えるものになっ ていない	× c. が×なため意味づけ も成り立っていない	
	T2	合唱コンクールで歌いたい曲	◎	◎	◎	
	T4	SDGs14「海の豊かさを守ろう」について、私ができること	◎	◎	◎	論理展開を先に示すという 工夫

5-4. 生徒Dの変容について

生徒Dの振り返りの分析

※◎ = ねらいとしており、発揮されたもの / ● = ねらいとしていなかったが、発揮されたもの / × = ねらいとしていたが発揮されなかったもの

学年	テーマ 連番	単元名	生徒Dの振り返りの中で発揮が見られたCds												
			課題設定	情報収集		整理・分析					まとめ・表現				
			#1	#6	#8	#9	#10	#11	#13	#15	#18	#19	#20	#21	
中1	T2	コンビニエンスストアの立地		×		●					◎	×			
	T4	青空市の図書館		×							◎	◎			
	T5	エーメールと「僕」の課題		◎				●			◎	×			
中2	T1	私の好きなものの共通点	×	◎	●	●					×	×			
	T2	合唱コンクールで歌いたい曲		×				◎			●	×			
	T4	SDGs14「海の豊かさを守ろう」について、私ができること	◎	◎				×	◎	◎	◎	◎	◎		◎

生徒Dの作文の分析

※◎ = できている / △ = 一部できている / × = できていない

学年	テーマ 連番	単元名	生徒Dの作文の分析			
			b. 根拠と自分の考えの書き分け (#11と対応)	c. 根拠として適切な情報の提示 (#9, #15と対応)	d. 意味づけの提示 (#15と対応)	備考
中1	T2	コンビニエンスストアの立地	◎	△ 要素はあるが、やや説明不足	× 要素なし	
	T4	青空市の図書館	◎	◎	◎	
	T5	エーメールと「僕」の課題	◎	◎	◎	
中2	T1	私の好きなものの共通点	◎	◎	◎	
	T2	合唱コンクールで歌いたい曲	◎	◎	◎	
	T4	SDGs14「海の豊かさを守ろう」について、私ができること	◎	◎	◎	反駁の要素あり

5-5. 生徒Eの変容について

生徒Eの振り返りの分析

※◎ = ねらいとしており、発揮されたもの / ● = ねらいとしていなかったが、発揮されたもの / × = ねらいとしていたが発揮されなかったもの

学年	テーマ連番	単元名	生徒Eの振り返りの中で発揮が見られたCds												
			課題設定	情報収集			整理・分析					まとめ・表現			
			#1	#6	#8	#9	#10	#11	#13	#15	#18	#19	#20	#21	
中1	T2	コンビニエンスストアの立地		×		●					×	◎			
	T4	青空市の図書館		×							◎	×			
	T5	エーミールと「僕」の課題		◎				●			×	×			
中2	T1	私の好きなものの共通点	×	×							×	×			
	T2	合唱コンクールで歌いたい曲		×			×				●	×			
	T4	SDGs14「海の豊かさを守ろう」について、私ができること	◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎

生徒Eの作文の分析

※◎ = できている / △ = 一部できている / × = できていない

学年	テーマ連番	単元名	生徒Eの作文の分析					
			b. 根拠と自分の考えの書き分け (#11と対応)	c. 根拠として適切な情報の提示 (#9, #15と対応)	d. 意味づけの提示 (#15と対応)	備考		
中1	T2	コンビニエンスストアの立地	◎	×	主張を支えるものになっていない	×	要素なし	
	T4	青空市の図書館	◎	△	要素はあるが、やや説明不足	◎		
	T5	エーミールと「僕」の課題	◎	△	要素はあるが、冗長で焦点化ができていない	◎		
中2	T1	私の好きなものの共通点	◎		◎	◎		
	T2	合唱コンクールで歌いたい曲	◎		◎	×	要素なし	
	T4	SDGs14「海の豊かさを守ろう」について、私ができること	◎		◎	◎		

5-6. 生徒Fの変容について

生徒Fの振り返りの分析

※◎ = ねらいとしており、発揮されたもの / ● = ねらいとしていなかったが、発揮されたもの / × = ねらいとしていたが発揮されなかったもの

学年	テーマ連番	単元名	生徒Fの振り返りの中で発揮が見られたCds											
			課題設定	情報収集		整理・分析					まとめ・表現			
			#1	#6	#8	#9	#10	#11	#13	#15	#18	#19	#20	#21
中1	T2	コンビニエンスストアの立地		×						×	◎			
	T4	青空市の図書館		×		●				◎	◎	●		●
	T5	エーメールと「僕」の課題		×				●		×	×			●
中2	T1	私の好きなものの共通点	×	◎	●	●				×	×			
	T2	合唱コンクールで歌いたい曲		×			◎				×			
	T4	SDGs14「海の豊かさを守ろう」について、私ができること	?	?			?	?	?	?	?	?		?

生徒Fの作文の分析

※◎ = できている / △ = 一部できている / × = できていない

学年	テーマ連番	単元名	生徒Fの作文の分析			
			b. 根拠と自分の考えの書き分け (#11と対応)	c. 根拠として適切な情報の提示 (#9, #15と対応)	d. 意味づけの提示 (#15と対応)	備考
中1	T2	コンビニエンスストアの立地	× 文意不明	× 文意不明	× 要素なし	
	T4	青空市の図書館	◎	△ 要素はあるが、示し方がわかりにくい	× 要素なし	
	T5	エーメールと「僕」の課題	◎	◎	△ 根拠の解釈を示しているが、主張との結びつきが不十分	
中2	T1	私の好きなものの共通点	◎	◎	× 要素なし	
	T2	合唱コンクールで歌いたい曲	◎	◎	◎	
	T4	SDGs14「海の豊かさを守ろう」について、私ができること	◎	◎	◎	